

令和2年度 トップスポーツチームによる学校交流事業
犢橋小学校 × 稲毛インターナショナルトライアスロンクラブ・秦 由加子選手

1. 目的

千葉市ではトップスポーツ連携の推進事業として選手に親しみやすさと憧れを持ってもらい、選手と直接触れ合う機会を提供することでスポーツの楽しさを体感してもらうとともに、スポーツを「観る」だけでなく、スポーツを「する」人口の増加を目指すものです。

2. 概要

日 時：令和2年10月7日（水）3限・4限

実施校：千葉市立犢橋小学校 4年生 合計57人

講 師：秦 由加子 選手

【トライアスリート・稲毛インターナショナルトライアスロンクラブ所属】

3. レポート

今回は千葉市ゆかりのパラトライアスリート、「秦 由加子選手」に訪問いただきました！

はじめに、秦選手より、現在に至るまでの経験をお話をいただきました。

13歳の時に骨肉腫が見つかり突然入院となったこと、治療するためには、足を残す方法と切断する方法があるが、切断する方法が生存率が高く、ご両親の支えや医師の言葉を胸に、その決断をご自身でされたこと。

そして退院してから登校する際は怖かったこと、体育はずっと見学していたこと、人の目を気にして生きていたこと。

しかし、「自分を変えたい」という強い思いから26歳で水泳を再開し、パラトライアスリートのサラ・レイナートセン選手に憧れ、2013年からトライアスロンに転向し、2016年のリオパラリンピックでは6位に入賞しました！

そして、障がい者になって良かったと思えるまでになり、今では「障がいがありますけど何か？」という気持ちがあるという力強い言葉がとても印象的でした。

さらに、「障がいを持つことは特別なことではない」重要なのは「自分がどう生きたいか？」「自分次第で人生は大きく変わる」という言葉に生徒たちは真剣な眼差しで聞き入っていました。

講話の最後には、障がいを持つ人が身近にいたならば、「仲良くなりたと思えばいい、友達になればいい、そうすればどうしたら力になれるかがわかります！」「トライアスロンを好きになってくれたら嬉しいです！」というメッセージです！



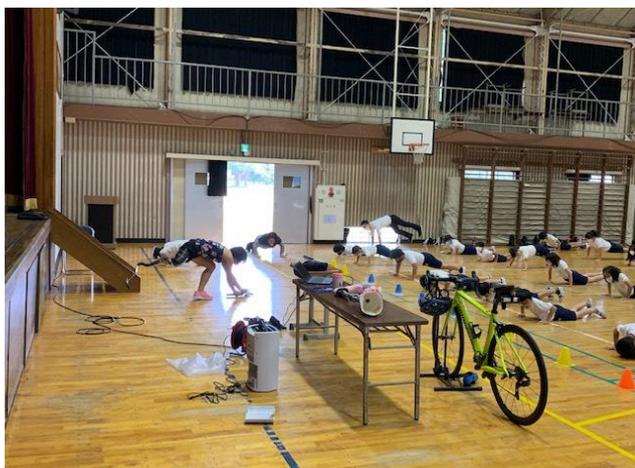
4. 実施の様子



義足には競技用と普段用がありますが、両方とも100万円くらいと聞いて生徒たちはビックリ！生徒たちからは「意外と重い！」という声も



次はアスリート直伝のウォーミングアップを体験してみます！ジャンプ→腕立て伏せ→バービー→クランクで1セットです。



最後の方は生徒たちの腕がプルプル・・・秦選手から「みんな体力なさすぎ！こっちは片足だよ！」と秦選手から笑顔で檄（エール）が飛びます。



いよいよラストパート。アスリートと笑顔で一緒に汗を流す時間もいよいよ終わってしまいますが、最後はみんなやり遂げて笑顔と拍手でメニューは終了です。

5. あとがき

秦選手と一緒に楽しく体を動かした後は質問タイム。

生徒たちからは、「義足をしていない時の足の感覚はどんな感じですか?」「義足をつけている人とそうではない人の足の速さはどちらが速いですか?」「どうやって動かすんですか?」という質問が上がりました。

先生からの、「26歳のときに挑戦することになったきっかけを教えてください」という問いかけに秦選手からは「一歩踏み出す勇気、それはすごい力がある、でも自分が何もしなければ周りは何も変わらない、自分の人生は自分のもの、踏み出すのはいつでもいい」そんな思いを語っていただきました。

秦選手、本日はありがとうございました!

秦選手の所属する稲毛インターナショナルトライアスロンクラブのホームページはコチラ! <https://inage-itc.com/>

◆**トライアスロンとはスイム・バイク・ランの3種を順番に行い、順位を競う競技です。**

秦選手はスイムを750m・バイク20km・ラン5kmの距離を走破します!

東京パラリンピック出場を目指す秦選手をみんなで応援しましょう!!

**東京パラリンピックでのパラトライアスロン PT2 クラスはお台場を舞台に
2021年8月29日(土)30日(日)開催予定です。**